

はじめに

急速に変化する社会環境、都市化が進む生活環境の中、集中できない、いらいらとするといった「荒れ」の問題や食生活の乱れによる肥満、体力低下、情緒不安など、子どもたちに関する諸問題が顕在化しており、子どもたちを健全に育てたい、たくましく生き抜ける力を持った子どもに育てたいといった社会的関心が高まっています。

そうした中、子どもたちが自ら学び自ら考える「生きる力」の育成をねらいに、平成14年度から全国の小中学校で「総合的な学習の時間」「完全学校週5日制」の本格導入がなされました。体験的な活動や問題解決的な学習が重視される「総合的な学習の時間」では、地域と連携した活動が求められており、地域においてもこれまで、学校に子どもたちの教育を任せがちであった反省をふまえ、家庭・地域が子どもたちを育成する役割が見直されています。

しかしながら、子どもたちを育む場として期待される「地域」は、コミュニティの衰退、都市化による自然環境の減少など、今日、その機能を十分に発揮しているとは言い難い状況にあります。地域の中で関係組織や個人が連携し、子どもたちを育む新たな受け皿づくりのニーズが高まっています。

現在、全国各地で地域として子どもたちを育む受け皿づくりが進んでいますが、まだ、一部の有志に負担が集中していたり、地域内の連携が十分ではなく、各組織がバラバラに取り組んでいる状況も聞かれています。地域による子どもたちの農業・農村体験活動を継続・発展させていくためには、一部有志による活動から組織として支える活動、地域における諸関係機関ならびに個人のネットワークで支える活動とするなど、点でなく線・面による地域の受け皿づくりが求められています。

本ハンドブックは、このような地域が連携する活動づくりをねらいとして企画・制作いたしました。本冊が地域による子どもたちの農業・農村体験活動を進める上での参考となれば幸いです。

最後に、本書のとりまとめにあたり、現地調査、資料提供等にご協力いただきました学校・行政・JA等の関係者に対して、深く感謝の意を表します。

平成15年10月

全国農業協同組合中央会